

HS ニュースレター

春季号・「満蒙開拓平和記念館」訪問

報告：春爛漫の南信州を訪ねて(宮尾尊弘)

満州開拓と別荘開発の関係(寺沢秀文)

熊本地震の被害についての報告(中井詔太郎)他

報告：春爛漫の南信州を訪ねて 宮尾尊弘

満州開拓とその後の悲劇は、沖縄での戦争と戦後の悲劇と並んで忘れてはならない日本の「歴史問題」といえます。その満州の歴史を生きのまま伝える「満蒙開拓平和記念館」を、色とりどりの花桃や山桜が咲き誇る南信州の阿智村を訪ねたのは4月17日のことでした。

ハートストック会員の寺沢秀文さんが設立と運営に尽力を尽くされているこの記念館には、寺沢さんの親族を含む満州からの引揚者たちの貴重な記録や証言が集められ、今も生きた形で展示されています。この記念館がこの地にあるのは、満州開拓に「移民」を送り出した人数がもっとも多いのが長野県、それもこの南信州の下伊那・飯田地域だったからとの説明をうかがって、その歴史的な必然と寺沢さんの使命感を実感しました。

このような「国家的」な問題にもかかわらず民間ボランティアベースで3年前の4月に設立・開館以来、すでに9万人近い来館者があり、土日には寺沢さん始

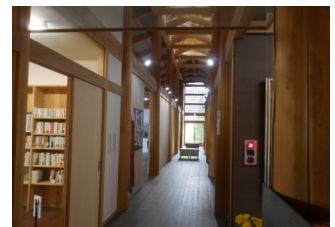
め何人かのボランティアが案内に追われるほどの活発な活動を続けておられるのは、ただ感心するほかありません。

今回の訪問で感激したのは、その他にもちろん地元の信州そばの美味しさ、文字通り満開の花桃の豪華さ、日本アルプスの雄大な風景など挙げればきりがありません。

ただし南信州はどちらかという名古屋圏で東京からはかなり遠く、中央高速で渋滞がなくても3時間半ほどかかりますが、途中風光明媚な場所で美味しいものを食べて休み休み行けば、それほど距離は苦になりません。この地域の最大のニュースは2027年開通予定のリニア中央新幹線の駅が飯田地域にできることで、そうなれば品川から30～40分で新駅に行けて、そこから1時間圏内に入るので、今からこの記念館も含めた観光資源の整備を含めた街づくりを進めているとのことでした。これからも、寺沢さん始め地元の方々の活躍に期待がかかります。(宮尾尊弘)

参考：満蒙開拓平和記念館のHP:

www.manmoukinenkan.com



上：満蒙開拓記念館前で寺沢さんと

中：貴重な資料が収まる記念館内部

下：全国で有名な阿智村の花桃並木

ハートストック研究会とは

「ハートストック研究会」は、モノのストックだけでなくハート(心)のストックを豊かにするにはどうしたらいいかを追求する人たちの集まりで、誰でも入会できます。

東京や地方さらには世界各国の生活や仕事の問題を、土地や住宅といったモノのストックのあり方から、人の考え方や気持ちといったハートのストックのあり方まで議論して自らの心を豊かにすることを目的としています。

写真家鶴崎燃の受賞作「海を渡って」の日本 x 満州

ビジュアル・アーツ・フォト・アワードを昨年受賞した写真家・鶴崎燃の写真集『海を渡って』に日本と満州に関する興味深い写真が載っており、特にその中で何度も取り上げられているのが、長野県下伊那地域の人や風景です。それらの写真は以下のサイトですべて見られます。
www.moyuru-tsurusaki.com/workpress/?p=499

これらの写真の上から2段目の人物について、寺沢秀文さんが次のようにコメントしています。

「この方は元上久堅開拓団の引揚者の方で、私も昔からよく知っています。満蒙開拓記念館でも語り部として時々お話しして頂いています。今もとてもお元気です。この方はもう90歳以上になるはずですが、こういった満蒙開拓の体験者もどんどん残り少なくなってしまいます。こういった方々のお話をもっとしっかりと聞いて残していかなければならないと思っています。過去を残すこと、知ることは、正しく未来に向けての糧とするためです。」(寺沢秀文さん、5月8日寄稿)

戦後開拓と別荘開発 寺沢秀文

私は満蒙開拓のことに関わってきた中で、戦後開拓と別荘開発の関係等についても知ることが出来ました。先週末に隣県の岐阜県内の2ヶ所に泊りがけで出かけ、一つはある村から分村送出の満蒙開拓団の遺族会主催の慰霊祭に招待され、またもう一つはやはり岐阜県内に出来た「たかす開拓記念館」という新しい開拓記念館の開館セレモニーに招待されてのものでした。

今は岐阜県郡上市に合併している旧高鷲(たかす)村は、飛騨山中の貧しい山村で、明治時代には北海道開拓に多くの開拓民を送り出し、また戦前・中には旧満州に満蒙開拓団を分村として送り出している村です。更に、村内の「ひるがの高原」は戦後、旧満州等からの引揚者が再入植した戦後の開拓村でした。

様々な開拓の歴史を辿っていくと、近代日本における地方山村の生きてきた道が良く分かります。

スキー場等があり、別荘開発等が早い時期から始まった「ひるがの高原」もそうですが、戦後の別荘開発ブームの舞台になった中には、実はこういった戦後開拓地も多く含まれています。戦後の多くの外地からの引揚者の行き先として「緊急開拓事業」により解放された戦後開拓地の多くは、今まで人の手の入っていない山村地、高冷地等でした。そして、こういった場所が戦後の別荘開発の舞台ともなりました。高冷地、冬季厳寒で不便な立地、生活苦の中で多くの開拓者たちが農地や山林原野を開発業者に売り渡して町へと出て行き、開拓地は別荘地やゴルフ場になりました。

山間地等での別荘地等の歴史を紐解くと、実はそこはかつては戦後の開拓地であったというケースはかなり多く見受けられます。高冷地、夏季冷涼等で、道路、水道等の取りあえぬインフラ整備のある高原地帯の開拓地は格好の別荘適地となったわけです。

軽井沢の外周部に千ヶ滝別荘地という地区がありますが、その地区に含まれる追分地区には、戦後満州から引き揚げてきた「大日向開拓団」(満州への最初の分村開拓団として有名)が戦後母村の大日向村には戻れず、この浅間山麓の開拓地に再入植しており、その人たちが開発ブームの頃に、農地や山林を別荘用地として手離しで、ほとんどが離農しています。

その開発ブームの時に、開拓者たちから業者へと土地を売り渡した時に動いた不動産業者の中には、自らもその開拓者の一族であった方が経営する「追分商事」という開発業者などもありました。

戦後の「緊急開拓事業」と別荘開発とは意外なところで繋がっているということを知ったのは、藤田観光と退社し、飯田に戻って不動産鑑定士事務所を開業し、その傍ら中国帰国者の支援活動に参加し、満蒙開拓の調査研究等に係わりだしてからのことでした。

いろいろなことが繋がっているのだなあということを、改めてつくづく感じずにはおられません。(4月28日寄稿)

熊本地震の被害についての報告 中井詔太郎

熊本の地震について、天草の中井詔太郎さんより以下のような報告がありました。

4月14日:「今のところ天草では被害はありませんが、余震が続き不安です」

4月25日:「余震は続いていますが少なくなりました。天草では建物倒壊等はありません。熊本市内、益城町等に比べ、被害は僅かです。物流も回復してきました」

5月3日:「4月16日の本震から半月経ちましたが、天草でも余震が続いています。天草市は市営住宅に被災者受け入れを開始しました。被災者は避難所生活、車中宿の長期化で限界にきています」

香港を久しぶりに訪れて (4月19日～23日) 宮尾尊弘



(左)右側のビルが香港中文大学ビジネススクール (右)路面電車が広告塔に

10数年ぶりに香港を訪問しました。香港中文大学で講演するためでしたが、5日間もゆっくり過ごして、昔行った中心部のホテルや郊外の香港大学などを再訪しました。中国の景気減速の影響か、思ったより落ち着いた雰囲気でしたが、それでも一人一人は電車の中でも携帯に大きな声で話しかけたりする活力あふれる雰囲気と食べ物の美味しさは変わりませんでした。(宮尾尊弘)

HS ニュースレター

年3回発行
ハートストック研究会
発行人・宮尾尊弘

住宅や土地といったモノのストックだけでなく、人の考え方や気持ちといったハート(心)のストックを豊かにするための研究会のブログ:
<http://hstock.blog90.fc2.com/>

ハートストック研究会
2013年度事務局
幹事: 飯窪光隆
会計: 田淵千代子
顧問: 二木憲一